



第3回 多久百景写真コンテスト

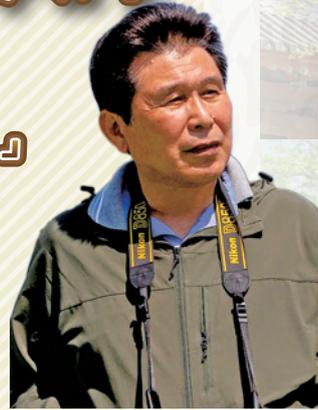


グランプリ受賞

作品名「でかいやー」

2年連続のグランプリ受賞を驚きとともに大変うれしく
 思っています。今回の写真は、女山大根の収穫イベントで
 撮影したもので、男の子の素晴らしい表情と、背景の「女
 山大根」ののぼり旗をきれいに写せたので、コンテストの
 主旨にもぴったりだと思いました。これからも美しい風景
 や多久市のみなさんのいきいきとした表情をカメラに収め
 ていきたいです。

※グランプリの写真は表紙に掲載しています

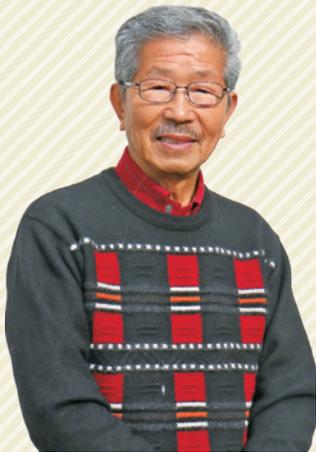


かわさき のぶよし
川崎 信義 さん
 (長崎県佐世保市)



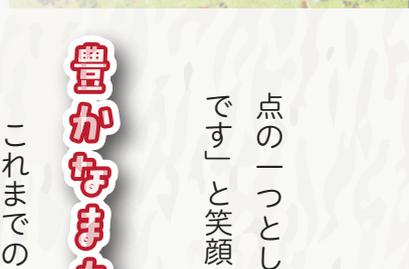
準グランプリ受賞

作品名「星空に浮かぶ多久聖廟」



やなぎ しげひろ
柳木 繁弘 さん
 (佐賀市)

10年間、星の写真
 を撮り続けていま
 す。今回は多久聖廟
 に、星にまつわる話
 があると知り、北極
 星と聖廟をコンセプ
 トに、20秒ごとにシャッターを切り、約200枚の
 写真を合わせて仕上げました。普段は写真クラブ
 を主宰していて、メンバーと釈菜などの多久市の
 さまざまなイベントを撮影しています。今後もさら
 に、難しい写真を撮れるよう挑戦していきます。



豊かちまちを守り、育む

点の一つとして足を運んでいただけたら嬉しい
 です」と笑顔で話されます。

これまでの3回のコンテストで、グランプリ・
 準グランプリを含む、計60の入賞作品が集まり
 ました。「応募作品は、柔軟な発想で撮影されて
 いるものがとても多く、毎回感動しています。
 山の上から花火を撮ったり、向かいの山から山
 間部の集落を撮ったりと、1つの写真に収める
 ための行動自体が素晴らしいですね。長い間、
 多久市の人たちが守り続けてきた自然と文化の
 良さに気付いて撮影してくださる人が多いと感
 じます」と話す諫山さん。回を重ねるにつれ、
 カメラを持って景色を眺めながら歩く人が増え
 るなど、コンテストの効果は大きいようです。

一番の目標は、みなさんが多久市の自然や歴
 史・文化に興味・関心を抱いて、景観を一緒に
 守り育ててもらうこと。「コンテストはあくまで
 その手段の1つなので、これを通して多久市の
 歴史を記録しながら、まちを守り育む活動を行っ
 ていきたいと思えます。ぜひ多久百景写真コン
 テストに挑戦し、一緒に多久市を盛り上げましょ
 う」と諫山さんは思いを語られます。

問 公益財団法人 孔子の里 ☎75-51112